

平成 30 年 5 月 28 日現在

機関番号：34101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02845

研究課題名(和文) 古代伊勢神宮に関する基本文献の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive study of basic literature on ancient Ise shrine

研究代表者

清水 潔 (Shimizu, Kiyoshi)

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：10087736

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：皇學館大学附属図書館所蔵の『荒木田久老校合内宮儀式帳』・『黒瀬益弘書写外宮儀式帳』を底本として、これまでに刊行された『群書類従』・『日本祭礼行事集成』・『神道体系』の各校訂本の成果を整理統合し、中川経雅の『大神宮儀式解』、静嘉堂文庫所蔵『谷川士清・士逸書入 内外太神宮儀式帳』、橋本正兌の『外宮儀式解』、村主政方の『等由気宮儀式帳鈔』を比較に用いて、『「皇太神宮儀式帳」校訂試案』・『「止由気宮儀式帳」校訂試案』を作成した。この校訂本の作成によって、これまで蓄積された校訂の成果を整理統合するとともに、新たに近世以来の神宮祀官・研究者の成果をも吸収した現在までの学術水準による緻密な校訂を提供できた。

研究成果の概要(英文)：The Procedures for Ceremonies in the Enryaku Era is the most important and oldest classical text about Ise Jingu, and it is a generic term for the Registers of ceremonies of the inner and outer sanctuaries of Ise Shrine. As a new important project, we have been promoting the study of the Procedures for Ceremonies in the Enryaku Era. Up to this point, a report on the manuscripts, a related literary research catalog(draft), a library catalog (draft), and Tentative Plan for a Revision of the Records of the Ceremonies of the Kotai Jingu of Ise have been published. In addition to consolidating the achievements of the recension works, that have been accumulated so far. This would give the existing field a new and detailed recension at the current academic level, absorbing the research findings of Jingu-Shikan and researches that have been done since the early modern period.

研究分野：日本古代史

キーワード：伊勢神宮 延暦儀式帳 皇太神宮儀式帳 止由気宮儀式帳 式年遷宮

1. 研究開始当初の背景

平成25年に斎行された第62回神宮式年遷宮が契機となり、国民的な関心を集めている伊勢神宮についての最重要の古典である『延暦儀式帳』には、注釈書として近世後期中川経雅の『大神宮儀式解』と橋村正兌の『外宮儀式解』以降は詳細なものが見られない。研究としては『延暦儀式帳』の成立や書名を主題・対象とした研究、また研究者の興味による個別の記載項目を中心に考察が進められた研究が行われているが、全体を通した注釈的な研究は今日の学界では見られない状況であった。

2. 研究の目的

伊勢神宮についての最重要の古典である『延暦儀式帳』には、注釈書として近世後期中川経雅の『大神宮儀式解』と橋村正兌の『外宮儀式解』以降は詳細なものが見られない。研究としては『延暦儀式帳』の成立や書名を主題・対象とした研究、また研究者の興味による個別の記載項目を中心に考察が進められた研究が行われているが、全体を通した注釈的な研究は今日の学界では見られない状況の中で、『延暦儀式帳』を解説し、『延喜式』神祇(巻1～巻10)などの諸法典や伊勢神宮に関係する古記録・研究文献を総合的に分析し、中川経雅の『大神宮儀式解』と橋村正兌の『外宮儀式解』以降の今日までの研究成果を盛り込んだ『延暦儀式帳』の注釈書を斯界に提供することを最終的な目的とする。

本研究は、この最終目的のために、その前提として『皇太神宮儀式帳』と『止由気宮儀式帳』の校訂本を公表することが研究の目的である。新たな校訂本の発表は、これまでに蓄積された校訂の成果を整理統合するとともに、荒木田久老校合本、黒瀬益弘自筆本、谷川土清・土逸自筆書入本を用いることによって、新たに近世以来の神宮祀官・研究者の成果をも吸収した現在の学術水準による緻密な校訂本を斯界に提供することができる。

3. 研究の方法

(1) 『延暦儀式帳』本文の校訂作業

荒木田久老校合『内宮儀式帳』(皇學館大学附属図書館所蔵)・黒瀬益弘書写『外宮儀式帳』(皇學館大学附属図書館所蔵)を底本とし、谷川土清・土逸自筆書入本『内外太神宮儀式帳』(静嘉堂文庫所蔵)を比較本に用いて本文校訂する。これに『群書類従』・『新校群書類従』・『神道大系』・『日本祭祀行事集成』の諸本も校訂に加え、これまでに蓄積された校訂の成果を整理統合し、さらにこれまでの校訂本には用いられなかった写本も、調査の結果良本と判断できれば、これを加えて校異の整理を行う。

(2) 『皇太神宮儀式帳』の輪読

校訂作業と平行して『延暦儀式帳』を輪読

し、一語一語について注釈を加えた中川経雅の『大神宮儀式解』と橋村正兌の『外宮儀式解』を基本におき、これ以降、今日までの『延暦儀式帳』に関する研究成果を加えて注釈に関する補訂を行う。具体的には、『延暦儀式帳』に関する唯一の注釈書である『大神宮儀式解』が提唱する学説に対して、それ以降のあらゆる研究者の学説を検討し、今日の学界水準における新たな注釈を行う。また、上記の両書には記載されていない内容や、『大神宮故事類纂』に漏れた古記録なども検討し、補訂する。

(3) 『延暦儀式帳』の古写本を調査する。

『皇太神宮儀式帳』と『止由気宮儀式帳』を合わせると約300本近い写本が存在している。そこで、全国に所蔵されている写本の調査を行い、複製を入手する。各地の写本を綿密に調査することによって、過去の校訂本には用いられなかった写本も良本と判断できれば、より良い校訂本を作成することが可能となる。

(4) 注釈書を調査・蒐集し、それらを集成する。

『延暦儀式帳』の注釈書には、すでに活字化されたものとして、中川経雅の『大神宮儀式解』と橋村正兌の『外宮儀式解』が著名である(いずれも『増補大神宮叢書』所収)。すでに刊行されている注釈書としては、この他に中川経雅の『太神宮儀式帳頭註』(『神祇全書』所収)と石崎文雅の『外宮儀式帳私考』(『神祇全書』所収)とがある。上記に記した注釈書以外のものとして、日本古典籍総合目録データベースによれば、藤原貞幹の『伊勢両太神宮儀式帳攷註』や橋村正兌の『内宮延暦儀式帳論』、伴信友の『大神宮儀式帳索引』など、約15点の注釈書が確認でき、いずれも未公刊資料であるので、所蔵機関におもむいて調査し、複製を入手する。『外宮儀式解』は30巻の予定のところ実際には4巻しか完成していない。これまでに完全な形では存在していない『止由気宮儀式帳』の注釈書を初めて提供するためには、前近代の未公刊の注釈書の内容も検討し当時の学説を取り入れる必要性があり、未公刊資料の調査・入手・分析が必要不可欠である。

4. 研究成果

(1) 『延暦儀式帳』校訂

皇學館大学附属図書館所蔵『荒木田久老校合 内宮儀式帳』・『外宮儀式帳』(黒瀬益弘写)を底本に用い、さらにこれまでに校勘されている『皇太神宮儀式帳』の諸本も活用して、現段階における学界の研究成果を組み込んだ校訂本を作成した。

(2) 『延暦儀式帳』写本の調査

東京大学総合図書館・同史料編纂所・同国文学研究室6点、大倉精神文化研究所大名神原文庫所蔵2点、金沢大学附属図書館暁烏文

庫所蔵 1 点、富山市立図書館所蔵 1 点、國學院大學所蔵 6 点（以上、平成 27 年度）、国立公文書所蔵 6 点、神宮文庫所蔵 10 点、筑波大学所蔵 2 点、肥前島原松平文庫所蔵 2 点（以上、平成 28 年度）、玉川大学 2 点、神宮文庫 9 点（以上、平成 29 年度）の調査・蒐集を行った。

(3) 『延暦儀式帳』注釈書などの調査

宮内庁書陵部所蔵 5 点、静嘉堂文庫 6 点、前田育徳会尊経閣文庫所蔵 2 点、肥前島原松平文庫所蔵 3 点（以上、平成 28 年度）、東京都立中央図書館 5 点、東洋文庫 2 点、国文学研究資料館 8 点（以上、平成 29 年度）の調査・蒐集を行った。

(4) 「古代伊勢神宮に関する基本文献の総合的研究」研究会を月に 1 回の頻度で開催し、『皇太神宮儀式帳』の輪読を行って、注解原稿の第一次草稿の作成を行った。この輪読では、『延暦儀式帳』に関する唯一の注釈書である『大神宮儀式解』が提唱する学説に対して、それ以降のあらゆる研究者の学説や諸資料を検討し、今日の学問水準における新たな注釈を行った。これには写本に記載された鼈頭注記とあわせて、神宮に関する様々な古典や関連文献と比較することによって、神宮において『延暦儀式帳』や『延喜式』がどのように読み継がれたのかを確認できた。

平成 29 年度末までに 30 回開催し、『皇太神宮儀式帳』の「供奉朝御饌夕御饌行事事・新宮造奉行事并用物事」までの輪読を終了した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 6 件)

所功、享和元年（辛酉改元）の公卿勅使宮川「川原祓之図」に寄せて、瑞垣、第 239 号、査読無、2018、pp. 12 - 18

岡田登、倭姫命の伊勢巡幸 - 旅立ちの前に -、近畿文化、査読無、第 812 号、2017、pp. 1 - 8

佐野真人、『止由気宮儀式帳』校訂試案、皇學館大学研究開発推進センター紀要、第 3 号、2017、査読無、pp. 177 - 241、<https://kogakkan.repo.nii.ac.jp>

岡野友彦、中世の遷宮と伊勢国司北畠氏、瑞垣、第 235 号、2016、査読無、pp. 20 - 31

所功、伊勢の「大神宮」表記あれこれ、瑞垣、第 235 号、2016、査読無、pp. 32 - 34

佐野真人、『皇太神宮儀式帳』校訂試案、

皇學館大学研究開発推進センター紀要、第 2 号、査読無、2016、pp. 115 - 208、<https://kogakkan.repo.nii.ac.jp>

〔学会発表〕(計 2 件)

岡田登、倭姫命の伊勢巡幸、歴史研究会創立 58 周年記念第 32 回全国大会、2016 年

佐野真人、『皇太神宮儀式帳』の四至について「以北」表記に関する一考察、第 8 回皇學館大学人文學會大会、2015 年

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水 潔 (SHIMIZU Kiyoshi)
皇學館大学・文学部・教授
研究者番号：10087736

(2) 研究分担者

岡野 友彦 (OKANO Tomohiko)
皇學館大学・文学部・教授
研究者番号：40278411

加茂 正典 (KAMO Masanori)
皇學館大学・文学部・教授
研究者番号：10268055

岡田 芳幸 (OKADA Yoshiyuki)
皇學館大学・研究開発推進センター・教授
研究者番号：60261038

佐野 真人(SANO Masato)
皇學館大学・研究開発推進センター・助教
研究者番号：60586098

(3)連携研究者

所 功 (TOKORO Isao)
公益財団法人モラロジー研究所研究センター・道徳科学研究センター・教授
研究者番号：10087728

小林 郁(KOBAYASHI Kaoru)
皇學館大学・研究開発推進センター・助手
研究者番号：90779654

(4)研究協力者

岡田 登 (OKADA Noboru)
皇學館大学・名誉教授
研究者番号：10121518